

JICの活動の進捗、今後の方向性

2025年12月17日

株式会社 産業革新投資機構
Japan Investment Corporation

JIC



株式会社産業革新投資機構

- 株式会社 産業革新投資機構（JIC：Japan Investment Corporation）は、2018年9月に発足。2024年6月の産業競争力強化法改正により、JICの運用期限が2050年3月末まで延長。2050年を見据え、中長期的な視点で、日本のリスクマネーを巡るエコシステムの成長・発展のために役割を果たしていく。
- JICは、傘下のJIC VGI・JIC キャピタルや民間ファンドへの投資を通じ、政策的に意義のある事業分野へのリスクマネーを供給。
- 2025年10月1日にINCJを吸収合併。

JICグループ



JICベンチャー・グロース・インベストメンツ株式会社（設立:2020年7月）
ベンチャー・グロース投資活動により我が国のイノベーションを促進し国際競争力の向上に寄与。産業及び社会課題の解決を目指す。



JICキャピタル株式会社（設立:2020年9月）

国内投資・イノベーションの好循環創出、国際競争力強化に向けた事業再編の促進、デジタルトランスフォーメーション（DX）促進をはじめとした次世代社会基盤の構築に向けたリスクマネー供給を担う。

- 新投資基準では、これまでの分野を包含しつつ、重点投資4分野が再構成され、具体的な産業分野の例示が追加されるとともに、対象として中堅企業が明示されている。



我が国におけるオープンイノベーションを推進し、
我が国産業の競争力強化に貢献

- 2019年以来、JICが、民間ファンドとグループ子会社2社（JIC VGI、JICキャピタル）のファンドに対し、累計約2兆5,304億円の出資約束を行う。（2025年11月末現在）
- 2025年度は、11月末までに民間3ファンドへ合計85億円の出資約束を実施するとともに、JICキャピタルの2号ファンドに総額約8,000億円の出資を決定。



民間ファンド

ファンド数 : 51
出資約束総額 : 2,712億円

戦略	ファンド数	出資約束額
VC	48	2,122億円
PE・その他	3	590億円



JIC VGI
(ベンチャー・グロース)

1号 : 1,200億円 (20年9月設定)
2号 : 2,000億円 (23年1月設定)
オポチュニティファンド : 400億円 (23年9月設定)



JIC キャピタル
(バイアウト・ラージグロース)

1号 : 2,000億円 (20年11月設定)
共同投資ファンド : 9,000億円 (22年10月変更決定)
2号* : 6,000億円 (25年11月設定)
共同投資ファンド : 2,000億円 (25年11月設定)

*2号ファンド（PEF2）は、付随する組合経由の出資も含めた額を記載。

VC、スタートアップ分野

- 「プレシード・シード」から「アーリー」「グロース」まで、成長基盤を築く初期段階から支援を行うとともに、「ディープテック」「ライフサイエンス」「ゴー・グローバル」等を重点分野として取り組む。
- 政府の「スタートアップ育成5か年計画（2022年）」等も踏まえつつ、VC・スタートアップへの支援に引き続き取り組む。

JIC :

- ユニコーン創出に向けたアーリー段階からの支援や、セカンダリー市場の活性化を通じ、課題であるスモールIPOや、東証の市場改革といった変化に対応していく。
また、アフターマーケット投資にも取り組み、IPO後の成長を支援する。
- 有力な海外VC※とイベントを共催し、国内スタートアップの創業時からの海外展開を後押し。※Atomico、Vertex、Transpose
ディープテック領域に注力する海外VCに対してLP投資も検討。



JICとVertexでイベント共催

JIC VGI :

- ディープテック・ライフサイエンス領域のスタートアップに対する投資も含めて、
新規投資27社（投資額：約292億円）、累計109社（累計投資額：約1,429億円）へ投資実行。
5社のIPO、3社のM&A、2社の株式譲渡を実行。（25年11月末時点）
- 投資先企業の成長段階に応じた追加投資を17件実施し、持続的な成長を支援。

PE分野

- ・ JICキャピタルによるバイアウト・ラージグロス分野のPE投資を中心に、産業競争力強化に貢献
- ・ 新たなPEファンドとしてJIC PE 2を25年11月に組成
- ・ JICとして民間の大型バイアウトファンドへの投資方針を策定。現在、LP投資先について検討中。

JIC PE 2 概要



ファンド規模

- ・ 8,000億円
(メインファンド6,000億円、共同投資ファンド2,000億円)



期間

- ・ 運営期間：10年間（+2年まで延長可）
- ・ 投資期間：5年間



投資テーマ

- ・ 業界再編
- ・ 新規産業創出に向けての成長投資
- ・ 民間ファンド主導の「事業再編」機会への協調投資



対象分野

注力領域

- ・ モビリティ、半導体/電子部品、化学、素材、ヘルスケア

その他

- ・ IT、モノづくり、輸送機器、インフラ（社会/通信/エネルギー等）



1件当たりの投資額

- ・ JICCリード：100~1,000億円
 - ・ JICCマイノリティ：100~500億（上記を超える投資は共同投資ファンドを利用）
- ※JIC PE2では、民間ファンドとの共同投資をこれまで以上に積極的に模索。

JICキャピタルによる投資先の進捗

JSR株式会社：



- ・構造改革、業界再編を通じた成長戦略の実行を支援。
- ・FY25上期は売上収益・コア営業利益とも大幅に改善。5半期ぶりに最終黒字へ回復。
- ・デジタルソリューション事業の3事業(EM*, DIS*, OPT*)を成長ドライバーに中期計画を始動。2030年までに1,000億円のコアOP達成を目指す。

*EM：電子材料事業、DIS：ディスプレイソリューション事業、
OPT：オプティカルソリューション事業

新光電気工業株式会社：



- ・25年6月に非公開化完了後、JICキャピタルから役員を派遣。ハンズオンでのバリューアップを推進。経営管理体制高度化、短中期収益改善施策の立案、中計計画策定支援等をサポート。
- ・先進半導体パッケージ分野でのポジションの確立を強力に支援し、日本の半導体産業の国際的な競争力強化への貢献を目指す。

Astemo株式会社：



- ・25年9月、TDKが展開する車載用電源製品の新規開発事業を会社分割により、26年4月の継承予定を発表。
- ・SDV時代におけるモビリティの電動化と智能化のリーディングカンパニーを目指し、事業強化と持続的な企業価値向上を図る。

株式会社トプコン：



- ・25年3月公表、JICキャピタルは、KKRと江藤氏（トプコンCEO）共同での資本参画。
- ・25年9月TOB成立後、12月4日に非公開化手続きが完了。
- ・JICCの出資が完了
- ・国内ハードウェア企業によるグローバル市場でのソリューション企業へのビジネストランスフォーメーションとしての成功事例創出を目指す。

DE&Iの推進

- ・ リスクマネーの好循環の実現を通じ日本経済の持続的成長に貢献するため、環境整備の一環として、リスクマネーを巡るエコシステムにおけるDE&Iを推進。特にファンド業界における女性活躍推進に取り組む。
- ・ 昨年設定した出資要件（行動規範・倫理規範、ハラスメント防止規程の制定）については、新規投資先での着実な実施に加え、既存投資先へのフォローアップを実施し、順次投資先における整備が進展。
- ・ JICグループでは、これまでの検討・議論を経て、2025年度からDE&Iの実装を本格的に開始。女性活躍推進に関わる制度を導入するとともに、外部への発信も積極的に展開。

対外発信

女性起業家への投資および女性キャピタリスト育成支援をテーマとした投資先のインタビュー・座談会や、グループ内の投資プロフェッショナルによる座談会を実施。多様な人材の活用に関する発信を実施。



DE&Iが拓くファンド業界の未来
～ANRIが実践する女性起業家への投資の数値目標の設定～



DE&Iが拓くファンド業界の未来
～VCマネージャーと考える女性キャピタリストの可能性～



JICキャピタル座談会
【第1回】JICキャピタルという選択

グループ内の取組

DE&Iに関する役職員間の意見交換の継続的な実施を通じてフィードバックを行いつつ、取組を推進。

<導入済>

- ・ 女性活躍推進のための役職員間でのDE&I座談会の実施
- ・ 産休・育休等からの復帰後職員の支援制度
- ・ 女性活躍推進に向けた社内制度の拡充（ウェルネス休暇等）

<作成・検討中>

- ・ ライフイベント関連の社内制度をまとめた冊子等の作成
- ・ 多様性に関する研修の実施
- ・ 管理職要件の言語化及び女性職員の育成と計画的昇進

エコシステムへの貢献

投資エコシステム全体の持続的成長を支える基盤づくりへの貢献を目指し、ミドルバック意見交換会も定期的に実施。

投資先VCを中心に、本年は62名が参加。（12月2日実施）

投資家への透明性・信頼性を確保するために重要な公正価値評価に関するパネルディスカッション等を実施。

JICミドルバック意見交換会での様子

